

令和元年 11 月 27 日  
三菱原子燃料株式会社

### 原子力災害対策支援拠点（No.2）の選定案について

弊社では、原子力災害対策支援拠点（以下「支援拠点」という。）の 1 拠点目を原子燃料工業(株)東海事業所としているが、2 拠点目を選定するにあたり、弊社の三菱東海寮(以下「MNF 独身寮」という。)を利用できないか検討した結果、以下のとおり十分機能を果たせると考えられることから、MNF 独身寮を 2 つ目の支援拠点として選定することとしたい。

#### 【敷地】

MNF 独身寮の敷地は、標高 31m、MNF から東側約 450m の距離にあり、津波の心配もなく、面積は約 5,224m<sup>2</sup>（建物占有面積≒1,777m<sup>2</sup>）の広さを有し、原子力緊急事態支援組織（原子力レスキュー）や実働省庁（防衛省、自衛隊、警察、消防）が集結して、事業所への物資輸送等の原子力事業所災害対策を行う上で、十分に活動可能な広さを有している。

また、車両や重機等の除染・汚染検査、サイト等立入車両の駐車、物資輸送体制の準備等も合わせて十分に行える広さである。（大型車両でも 10 台以上は駐車可能）

#### 【施設】

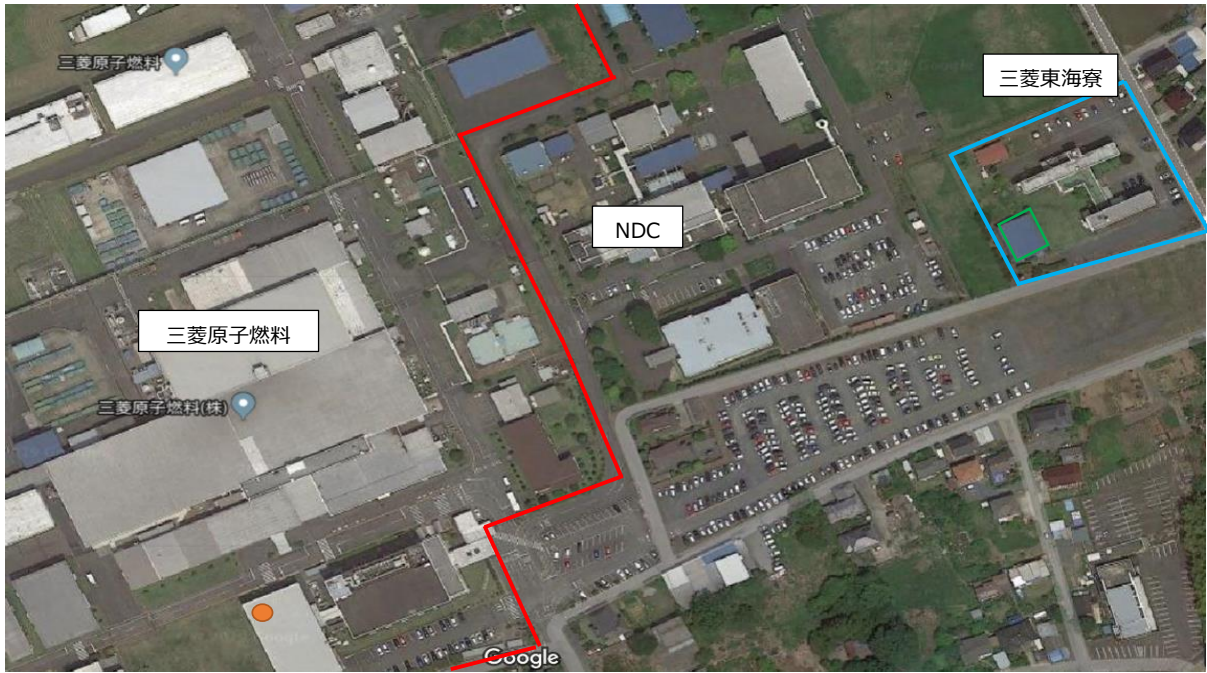
MNF 独身寮の施設の一画（約 221m<sup>2</sup>）を利用し、テント等を張らずとも資機材を持ち込む又は予め配備することで、事業所の緊急時対策所や関連機関（総理官邸、ERC）などと確実に通信を行うことができる。また、更衣及び使用済の防護服の仮保管なども十分に行うことができる。

#### 【防災資機材の整備】

原子力災害対策関連機関等と確実な通信連絡が行える手段として、衛星携帯電話、FAX、非常用電源などを事業所より輸送する。（その他資機材も含め、予め配備しておくことも検討する）

以上のことから、2 拠点目の支援拠点を MNF 独身寮とし、早急に弊社防災業務計画の修正に着手することとしたい。

以上



- 【凡例】
- 三菱原子燃料 周辺監視区域境界
  - 原子力事業所災害対策支援拠点エリア
  - 緊急時対策所
  - 屋内活動施設

### 原子力事業所災害対策支援拠点（三菱東海寮）

屋内活動エリア		屋外活動エリア	
面積	約 2 2 1 m <sup>2</sup>	面積	約 3, 4 4 7 m <sup>2</sup>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の拠点との通信連絡</li> <li>・被ばく線量管理、入退域管理</li> <li>・人の汚染検査・除染</li> <li>・更衣及び使用済みの防護服などの仮保管</li> <li>・発災事業者等への立入車両の入庫や出庫の管理</li> <li>・物資の保管や在庫の管理</li> </ul>	活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人や車両等の汚染検査・除染</li> <li>・更衣及び使用済みの防護服などの仮保管</li> <li>・発災事業者等への立入車両の入庫や出庫とその管理</li> <li>・物資の保管や在庫の管理</li> </ul>